

香川県初

自動運転車が小豆島にやってくる!

3大学(香川大学・群馬大学・明治大学)自動運転公道実験@小豆島

自動運転車試乗会 & パネルディスカッション

これからのクルマの未来はどうなっていくのだろう?

自動で運転したり、空を飛んだり。そんな未来がすぐそこに来ているかもしれません。

このイベントは自動運転車を通して小豆島の「島づくり」をみんなで考えるイベントです。

香川県初の試乗体験ができます! あなたもこの機会に体験してみませんか?

試乗体験
できます!

トヨタ
アルファード

参加無料
+
粗品
プレゼント

自動運転車試乗会

実験運行実施: 群馬大学 研究・産学連携推進機構
次世代モビリティ社会実装研究センター

開催日

2019. **3.18** (月)・**3.19** (火)

当日乗降地にて申し込み(先着順)。天候により中止することがあります。

運転
コース

道の駅小豆島オリーブ公園・記念館から
オリーブナビ小豆島までの往復

運転車両

トヨタアルファード (ATH20W)

同時開催

自動軽減ブレーキ(サボカー)体験会
最新安全運転支援機能搭載車両(最新サボカー)展示会

パネルディスカッション

日時

2019.3.19(火)
13:30~16:15

申し込み
不要

入場
無料

どなたでも入場
いただけます。

自動運転走行の現状と
小豆島の明るい未来—『島づくり』の視点から—

会場 道の駅小豆島オリーブ公園 オリーブ記念館 コンベンションホール

乗降地
運行時間

道の駅小豆島オリーブ公園・記念館
コンベンションホール前

〔運行時間〕 3月18日11:00~16:00

3月19日10:00~12:00

〔運行ルート案内図〕



主催



香川大学

肥塚研究室



CRANTS

群馬大学 次世代モビリティ社会実装研究センター



明治大学
MEIJI UNIVERSITY

自動運転社会総合研究所

共催

あいおいニッセイ同和損保

MS&AD INSURANCE GROUP

scheme

verge

後援

小豆島町・土庄町・香川県・四国運輸局・香川県警察本部・(一社)小豆島観光協会・(公社)小豆島青年会議所

自動運転車試乗会

実験運行実施:群馬大学 研究・産学連携推進機構
次世代モビリティ社会実装研究センター



運行日時

3月18日(月) 11:00~16:00
3月19日(火) 10:00~12:00

受付

当日乗降地にて申し込みを受け付けます。お待ちいただくときもあります。
先着順に整理券をお配りさせていただきます。
天候により中止することがあります。

乗降地

道の駅オリーブ公園・記念館
コンベンションホール前

期間中、乗車体験いただき、
アンケートにご記入いただいた方には

もれなく粗品プレゼント!

※数に限りがございます。※お1人様1回限りとさせていただきます。



【乗降地のご案内】



自動軽減ブレーキ(サポカー)体験会

運行日時

3月18日(月) 11:00~16:00
3月19日(火) 10:00~12:00

受付

当日会場にて申し込み(先着順)。
天候により中止することがあります。

場所

道の駅小豆島オリーブ公園
第3駐車場

自動ブレーキをはじめとする予防安全機能を備えたクルマを体験ください。

協力/香川トヨタ自動車・トヨタカローラ香川・ネッツトヨタ香川・ネッツトヨタ高松・香川トヨペット



パネルディスカッション

「自動運転走行の現状と小豆島の明るい未来—『島づくり』の視点から」

日時

2019. **3.19** (火)

時間

13:30~16:15

会場

道の駅小豆島オリーブ公園・記念館
コンベンションホール

13:30~15:00 / パネラーによる報告

コーディネーター 肥塚肇雄 教授(香川大学)

1

小豆島青年会議所 柳生忠勝 直前理事長

テーマ:「島の魅力を引き出す自動運転の可能性」

2

群馬大学 小木津武樹 准教授

テーマ:「群馬大学の実証実験の紹介と小豆島への示唆」

3

明治大学 中山幸二 教授

テーマ:「自動運転に関する法整備の動向と模擬裁判」

4

あいおいニッセイ同和損保 水野俊裕 商品企画部 担当部長

テーマ:「安全安心なクルマ社会と保険」

5

大阪大学大学院 土井健司 教授

テーマ:「公共交通のネットワークデザインと自動運転」

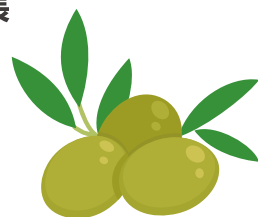
第1部

**申し込み
不要**

どなたでもご入場
いただけます。

**入場
無料**

(定員80名)



第2部

15:15~16:15 / パネルディスカッション

コーディネーター 須田英太郎 瀬戸内地域ディレクター(scheme verge株式会社)

第2部では、第1部でのパネラーの皆さまのご意見を踏まえ、「島づくり」の視点から、自動走行バスが地域公共交通に果たす役割・期待を中心に、自動運転車の社会受容性と小豆島の明るい未来についてディスカッションします。